

平成 27 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

申請学部・研究科名： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 荒尾 浩子

内線電話番号： 9 3 0 6

電子メール： arao@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

海外における教育実地研究の実現に向けた国際交流事業

3. 事業内容の別 (該当の□を■に変更)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会ともなる。また、グローバル化時代の今日、教員養成系においては海外の教育現場と日本の教育現場の比較体験や、学校教育と教員をめぐる諸課題に対する国際的な視野を広げ、教育のあり方や新しい教師像を考える機会となるような国際交流事業が望まれる。

本事業は、平成 23 年度より実施しているニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続する。このプログラムは、ニュージーランドにおける教育制度に関する講義、オークランド大学近隣の幼小中学校園の学校現場の参観と省察、およびオークランド大学の授業参加からなる。本年度は教育研修の第 4 回目を実施した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、すでに述べたような海外教育研修プログラムの計画を進め、23 年度に第 1 回目を実施した。23 年度は 9 名の学生が参加し、国際理解が深まり、留学、学習への意識も高まったと答えており、本プログラムは学生から高い評価を受けた。また、オークランド大学教育学部の国際交流担当副学部長をはじめ本プログラムに協力してくれた教員からは、参加学生が熱心で、態度が素晴らしいことから高く評価され、プログラムの継続が確約されている。24、25 年度は各 10 名、26 年度は 14 名の学生が参加し、同様の成果を得た。これらの成果は、教育学部附属教育実践総合センター紀要に報告した他、国際交流センター紀要にも投稿した。また、これらの実績から、25 年 8 月には教育学部との間で学部間協定が締結された。

(3) 事業実施結果

27 年度のオークランド大学教育学部における研修プログラムは以下の通りである。

研修期間は 8 月 31 日 (月) ~ 9 月 10 日 (木) で、現地には 9 日間滞在した。12 名の学生 (うち大学院生 1 名) が参加し、引率には事業担当者である英語教育の荒尾浩子と、学生指導として理科教育の後藤太一郎、学校教育の佐藤年明、および保健体育教育の後藤洋子があたった。学部授業である「教育実地研究」とし、事前指導を 5 月より 5 回行い、研修準備を進めるとともに、研修後には省察を行うとともにレポートの提出を行なった。研修では、特別授業として、「ニュージーランドに

における教育事情」、「多文化教育」、「E S L入門」の他、オークランド大学教育学部の授業4時間、そして、幼稚園、小学校、中学校、高校の学校訪問、授業参観、省察を行った。今回も昨年に続き4名の教職員が引率したことから、オークランド大学教員とともに、参加学生に行き届いた指導を行うことができ、学生は研修内容の

	1日目 (火曜)	2日目 (水曜)	3日目 (木曜)	4日目 (金曜)	5日目 (土曜)	6日目 (日曜)	7日目 (月曜)	8日目 (火曜)	9日目 (水曜)
午前	オークランド到着	NZの教育事情	NZにおける多文化教育	幼稚園視察 授業検討会	自由	自由	小学校視察	中学校視察	高校視察
午後	ホストファミリーとの対面	UAの授業参観	UAの授業参観	UA学生との交流	自由	自由	授業検討会 UAの授業参観	授業検討会 UAの授業参観	授業検討会 コース修了お別れ会

理解を深めることができた。

なお、今回は日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）に採択されたため、12名のうち11名が一人当たり7万円の補助を受け、他1名も三重大学国際交流特別奨学生制度により同額の補助を受けることができた。

（4）事業の意義

学部として学生に多様な海外研修・体験の機会を提供することが、学部の国際交流事業として欠かせない。学生のための海外研修の推進は近年急速に進んでいるが、教員養成学部にあふさわしい、幼小中高すべての校種の教育現場の参観を主体とした英語圏での短期海外研修は本学部では過去に例がない。プログラム内容は、本学部からの提案が基本となっており、オークランド大学教育学部との協力により、完成度の高い研修プログラムを組むことができた。これは本学部の独自の取り組みの結果であり、この種の活動をオークランド大学教育学部と実施している例は、国内の他大学にはない。

プログラムは現地で9日間の短期プログラムであったが、充実した内容であり、学生は短期間のうちに多くのことを学び、教員を目指す上での大きな意識改革となった。

さらに、日本学生支援機構の留学生交流支援制度などで学生のための国際化教育が推進される中で、本学部の英語圏での教育研修プログラムの実施制度として継続させることが必要と考えられる。

このように、本事業は学生の資質向上に大きな意義があるばかりでなく、学部としての特色ある海外研修プログラムと位置づけられる。また、大学院の授業としても位置付けることで、現職教員にとっても魅力的なものとなり、大学院生の確保につながることも期待できる。

(5) 事業の発展性

オークランド大学教育学部からは 28 年度と同様のプログラ実施の受け入れについては承諾を受けており、参加学生の募集も行い 10 名の希望者がある。本プログラムの開催については人文学部学生にも案内を強化している。また、オークランド大学学部国際交流担当副学部長は毎年三重大学を訪問しているが、平成 27 年 5 月と 12 月に本学を訪問し、学長をはじめ、国際交流担当理事と会談した。医学部からも短期派遣の計画があり、オークランド大学と本学の関係は、教育学部のみならず、大学間での協定に向けて進んでいる。オークランド大学教育学部国際交流担当副学部長は 28 年 4 月に本学に来る予定であり、その際には本プログラムだけでなく、短期外国語研修など、複数の交流プログラムの具体化に向けたも打ち合わせを行う予定である。

(6) 第 2 期中期目標・中期計画における位置づけ

I-3-(2)-3-1: それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて、多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。

に伴う活動。

I-3-(2)-2-2: 学生の国際性の涵養を図るため、ダブル・ディグリープログラム、3 大学ジョイントセミナー、海外インターンシッププログラムなどの学生派遣・受入れプログラムを充実させる。

(7) その他

(助成に関する要望事項等)

昨年度と同様に、今回の申請も必要最低経費を申請しましたが、実際には多額の自己負担を伴うものでした。学部の発展につながる事業成果が得られているため、本事業は継続をしますが、28 年度は JASSO の短期派遣の助成が不採択であったために、学生への補助が厳しくなりました。助成金額の増額を考慮していただけることを強く希望します。